

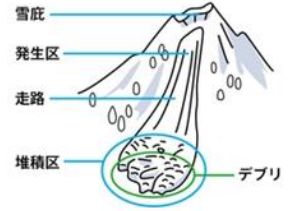


# 千日紅



花言葉は「安全」

## 知っておこう、雪崩の知識



新年、明けましておめでとうございます。今年の冬は昨年と比べて雪の日が多く、家族で雪かき等大変ではなかったかと思われます。雪といえば、今月20日から21日にかけてPTA行事でもある「親子スキー教室」が予定されています。今回の安全教育通信では、前号に続いて雪の災害について掲載しました。

### 雪崩災害に遭わないために

雪崩とは、「斜面上にある雪や氷の全部又は一部が肉眼で識別できる速さで流れ落ちる現象」を言い、積雪が崩れて動き始める「発生区」と、発生した雪崩が通る「走路」、そして、崩れ落ちた雪が積み重なる「堆積(たいせき)区」からなっています。また、雪崩によって堆積した雪を「デブリ」と呼びます。(図参照)

なお、雪崩は“すべり面”の違いによって、「表層(ひょうそう)雪崩」と「全層(ぜんそう)雪崩」の大きく2つのタイプに分けられます。

雪崩はスピードが速いため、発生に気付いてから逃げることは困難です。災害から身を守るためには、前もって雪崩が発生しやすいケースを知っておくことが重要です。日頃から危険箇所や気象情報をチェックし、雪崩の前兆を発見したらすぐに最寄りの市町村役場や警察署へ通報してください。

「首相官邸HP」より

種別	表層(ひょうそう)雪崩	全層(ぜんそう)雪崩
概要	<p>表層雪崩</p>	<p>全層雪崩</p>
主な発生時期	低気温で降雪が続く1~2月の厳寒期	気温が上昇する春先の融雪期
速度	新幹線並み(時速100~200km)	自動車並み(時速40~80km)
到達範囲	<p>雪崩の到達距離は、全層雪崩より表層雪崩の方が遠くまで到達します</p> <p>雪崩発生地点 (到達する範囲=危険地域)</p> <p>全層雪崩危険地域</p> <p>表層雪崩危険地域</p>	

資料、イラスト：国土交通省

### 住宅防火 7つのポイント

- 寝たばこは絶対しない
- ストーブの近くに燃えやすいものを置かない
- こんろに火を点けたままでそばから離れない
- 住宅用火災警報機を設置する
- 寝具やカーテンなどには防災品を使用する
- 住宅用消火器等を設置する
- 日ごろから隣近所との協力体制をつくる

### 4つの対策

- 逃げ遅れを防ぐために、「住宅用火災警報器」を設置する
- 寝具やカーテンなどには防災品を使用する
- 火災を小さいうちに消すために、住宅用消火器を設置する
- 日ごろから隣近所との協力体制をつくる

### 3つの習慣

- 寝たばこは絶対しない
- ストーブの近くに燃えやすいものを置かない
- こんろに火を点けたままでそばから離れない

住宅火災によって毎年約千人の方が亡くなっています。その半数が「逃げ遅れ」によって亡くなっています。死者の約七割を六十五歳以上の高齢者が占めています。住宅などの財産だけでなく命をも奪う恐ろしい火災。住宅火災の発生や逃げ遅れを防ぎ、命を守るために、日頃から取り組むべき「住宅防火7つのポイント」を紹介いたします。

政府広報オンラインより

### 住宅防火7つのポイント